

2013 年度 小委員会活動成果報告

(2014 年 2 月 12 日作成)

小委員会名	心理生理のフロンティア小委員会	主 査 名：土田 義郎 就任年月：2013 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境心理生理運営委員会)	委員長名：田辺新一 主 査 名：松原斎樹
設 置 期 間	2013 年 4 月 ～ 2015 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>学会では個々の研究者の努力により、人間側の感覚・知覚的研究に基づいた多様な研究成果が日々生まれている。しかしながら、その成果が直ちに建築設計やまちづくりといった実務に反映されることは少ない。このことから、本小委員会では下記に示す 2 点を目標と定めて活動する。</p> <p>(1)継続的にシンポジウムを開催し、テーマに沿った議論を深める。シンポジウムを実施することで発表者、聴講者の研究を推進するだけでなく、社会的な発信として実社会へ活用できる知見を普及させる</p> <p>(2)最先端の研究を扱うシンポジウムばかりでなく、初学者にとってもわかりやすい、研究手法に関する研究会を開催する。これにより、建築環境工学分野における心理生理的研究の底上げを図る。</p> <p>初年度： 学会内外における研究の動向把握 シンポジウム開催</p> <p>2 年度： 学会内外における研究の動向把握 シンポジウム開催 刊行予定書の立案 研究状況の総括と当該分野における展望の提示</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：土田義郎 (金沢工業大学)、幹事：秋田 剛 (東京電機大学)、梅宮典子 (大阪市立大学)、委員：松原斎樹 (京都府立大学)、西名大作 (広島大学)、山中俊夫 (大阪大学)、原田昌幸 (名古屋市立大学)、宮本征一 (摂南大学)、太田篤史 (横浜国立大学)、合掌 顕 (岐阜大学)、澤島智明 (佐賀大学)、竹原広実 (京都ノートルダム女子大学)、竹村明久 (大同大学)、原 直也 (関西大学)、光田 恵 (大同大学)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)		
2013 年度予算	94,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自 己 評 価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	<p>1. シンポジウム 心理生理のフロンティアを語る (第 1 回) 「はじめの一步をふみだそう」 参加者数 24 名</p>

大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	当初設定した活動計画に対して以下のような成果を得た。 1. 若手研究者を登壇者に迎えたシンポジウムを開催できた。 2. 上記シンポジウムでは、特に研究の裏話的などころにも留意して発表頂いた。それにより研究を今後進展させようとしている学生や研究者にとっての参考になったのではないかと考えている。
委員会活動の問題点・課題	1. 委員が定員に達しており、新規の委員募集が出来ない。 2. シンポジウムの開催時期が研究者にとっても多忙な時期と重なったためか、思ったよりも参加者が少なかった。よりインパクトのある発信のためには内容と同時に実施時期についても再考すべきと考える。

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

*表中の「(書名)」等の赤文字は、記述を誘導するための説明である。記載の有無にかかわらず最終的には削除のうえ提出すること。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2013 年度 小委員会活動 自己評価

(**中間年度評価**・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A B C D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>下記のような活動を実施しており、十分な成果が得られたと考える。</p> <p>1. 委員会における議論 委員会開催により、研究成果の高界や、研究分野を展望することに関して議論を深めた。今後も、委員会において継続的に方向性は検討すべきことであると思われる。</p> <p>2. シンポジウムの開催 若手研究者を登壇者に迎えたシンポジウムを開催できた。特に研究の裏話的なところにも留意して発表頂いた。それにより研究を今後進展させようとしている学生や研究者にとっての参考になりえる議論を展開した。 しかし、シンポジウムの開催時期が研究者にとっても多忙な時期と重なったためか、思ったよりも参加者が少なかった。本シンポジウムは、恒例のものとしていく方針であるが、よりインパクトのある発信のためには内容と同時に実施時期についても再考すべきと考える。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。